

沢登りネットワーク 山行報告

初級沢登り・・・沢に泊まって楽しもう！

「中津川支流 大滑沢より白泰山へ」秩父山系

< 山行企画会議 >

2012年8月20日(月曜) 19:30~20:30 参加者9名

担当理事の徳重氏より、沢登りについての注意、必要な装備の説明、大滑沢コースの説明、集合場所、費用、等の説明

< 山行実施 >

期日：2012年8月25日(土曜)~26日(日曜)

メンバー：徳重(リーダー)、小林、後藤、森田、近藤

コースタイム：

8/25 大滑橋9:30 営林署小屋付近 15:00

8/26 営林署小屋付近 7:00 尾根(白泰山登山道)11:20 栃本上部林道 13:30

< 感想 >

県連ホームページで「沢ネット参加者募集」を見つけ、熟慮の末、清水の舞台から懸垂下降する気持ちで参加を申し込みました。会の先輩から『沢ネットは厳しいぞ』と聞かされていたので、ビクビクしながら電話をしたが、徳重氏はとても優しい声なので安心しました。「日帰りの沢登りは先輩に3回連れて行ってもらいました。一般登山でテント泊りの経験はありません。53歳です。」に対し「・・・まあ、大丈夫でしょう」のお答えを頂き、「行くしかない」と決意しました。



『沢ネットは学校では無いから、自分たちが主体でやらなければいけない』と聞いていたので、予定コースの大滑沢の資料を探すが難しい。インターネットでは沢登りの詳しい山行報告が無い。溪流釣りの報告はいくつか見つかるがあまり参考にならない。やっと、隣の市の図書館で「奥秩父・両神の谷 100 ルート」を見つけて読む。企画会議でもこの資料が使われた。

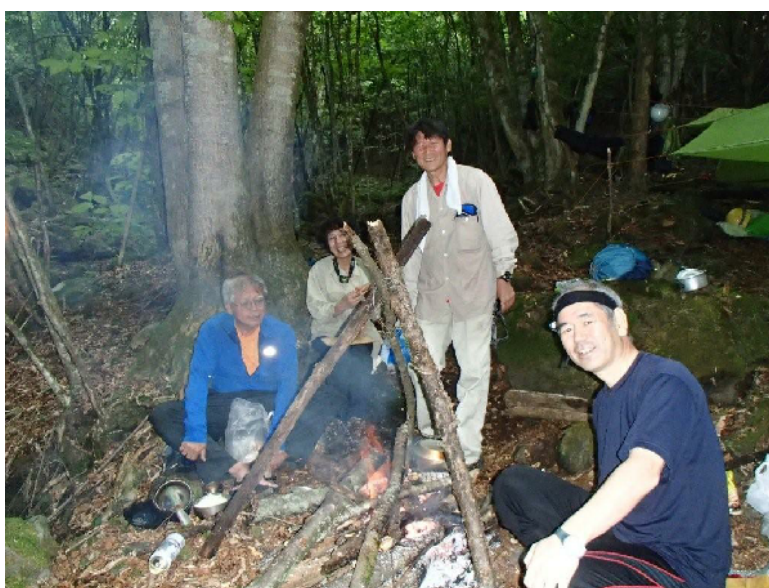
企画会議では、沢登りの一般的な事から、今回の大滑沢の様子まで、詳しく説明して頂いた。どんな服が良いか？下山の靴は？水は？まで、どんな質問にも答えて頂いた。「自分

たちが主体」にはまだまだでした。企画会議に参加した 9 人のうち、各自の都合で 4 名が参加できず、5 名での山行となった。

山行当日は快晴。天気予報も晴れ続きなので、夕立以外は天気の心配は不要。一週間位は、まとまった雨も降って無いので水量も安心。

車 1 台を下山口に置いてから、大滑沢に向かう。沢沿いの山道を少し歩いてから沢に降りる。ここから先が大苦戦、遡行図はあるが、現地と照合出来ない、とまかく前の人に続いて行くのみ。しまいには、足を滑らせ、頭を岩壁にぶつける。頭はヘルメットで全く大丈夫だったが、首と心にショック。みなさん御心配おかけしました。

もうすぐ営林署小屋付近かなという頃に、先頭から「臭いね」の声、営林署小屋のトイレが近いのか？と思ったが、沢筋の 20 メートル位先に真っ黒な先行者を発見。真っ黒・・・人間じゃない『熊だ』との声がいかに、先にクマが気が付いたか、一頭のクマが左岸高くまで駆け登るのが見えた。もう一頭が、食べかけの獲物をくわえて同じ左岸を 10m ほど登って茂みの中で止まった様子。獲物をくわえて登り切れなかったのだろうか、こっちを狙って無いとも限らない。たまたま対岸に巻き道があり、「熊さん、こっちに来ないで」と声をかけながら逃げる。しばらくして沢に降りると、こんどは子鹿を発見。小鹿もびっくりして逃げる。しばらく笛を吹く様な鹿の声が続く、親子がはぐれてしまったのか？び



くりさせてゴメンなさい。こっちも、びっくりしたので。

すったもんだの末に営林署小屋を発見。付近にタープを張り、薪を集めキャンプの準備をする。沢は天然のクーラーだ、この真夏にたき火がうれしいとは感激。隣のテントに気を使う事も無い沢のキャンプは最高だ。この歳になっても初めての経験で感激できるとはうれしい。もし、沢登りを食わず嫌いの人は、

人生の楽しみを食べ残しているかもしれませんよ。

2日目は、上部からロープで確保してもらって滝を2ヶ所登らせてもらう。もうひとつは「ここは、ノーザイル」とのリーダーの号令で、必死で登る。心行くまでシャワーを浴びて大満足。樹木が減り、谷が明るく感じる様になったあたりで遡行終了。水を汲んで、右岸の土手を登る、ここのヤブは薄いそうだが、急斜面の登りとあわさりヘトヘト。ギブアップ寸前で登山道に出る。「こんなに歩き易い登山道は、とってもありがたい」と、初めて知った。

白泰山山頂には登らずに、まっすぐ栃本方面に下山する。下山途中で、茂みの中で「ガサゴソ」・・・熊か？思わず同行者の女性を楯にして隠れる。熊は姿を見せなかったが、私のとっさの行動が下山するまで非難的になる。人間は緊急事態に本性が出る様だ、気を付けよう。・・・最後はバテバテだったが、とにもかくにも、無事下山。足を引っ張る事が多く、ゴメンナサイ。でも、とっても楽しく、収穫のあった沢登りでした。御指導頂いた徳重理事と、御同行頂いたメンバーの皆様に感謝いたします。

記：新座山の会・近藤修一 写真：大宮労山・小林隆治

